京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可らず

明治四十三年　紀元二千五百七十年
本紙定價　▲一枚金二錢▲一ヶ月前金卅五錢▲三ヶ月前金壹圓▲六ヶ月前金貳圓▲郵稅一ヶ月十五錢
月曜日及び大祭日の翌日は休刊（日刊）
廣告料金　▲五號活字十七字詰一行一圓金五十錢▲雜報欄特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢
發行兼編輯人　高木久馬太
印刷人　松久神一郎
京城西署西小門通（電話六六三）
發行所　京城新報社

雜報

上古の日韓關係（四）

▲幣原博士の談

▲遂に清に降る　此征韓の役後間もなく愛親覺羅氏が滿洲に勃興して朝鮮を侵掠するの志を立て清の太宗の如きは再度朝鮮を征伐しましたので李王は東西に遁逃し疲れ遂に清に降て其支配を受くることになつたのであります

▲西郷の征韓論　是より先き明は朝鮮の經營に成功し殊に儒教を皷吹して朝鮮人は現に清に降つて後までも明を慕つて居りました此間我國との關係は至極穩かになりまして殊に德川家康の懐柔策に依り兩國互に使節を交換し宗對馬守其間に立つて常に兩國の誼みを修むるの媒介をしたのでありますが斯くして明治維新の時に及び我政府から使を遣はしたるに其公文中に或は皇室と云ひ或は奉勅と云ひ朝鮮から見れば支那より外に用ひない字が用ひてありましたので深く我を疑つて容易に容れない爲め遂に西郷の征韓論となつたのでありますが幸に大事に至らず只我軍艦雲揚が砲撃せられたゞけで終りました

▲合併は自然の數　其後又明治十五年の亂并に同十七年の變等を經て彼の東學黨の一揆から日清戰爭を來し又延いて彼の國を保護する爲めに日露の大戰役を醸し我國は常に鋭意彼國の保護を力めて以て今日に及んだのであります實に朝鮮の保護に就ては古來數千年の間一方ならざる苦心と盡力とを重ねまして遂に統監府あるを致し、今回又更に一歩を進めて合併といふ事になりましたのですが合併の案件は合併の今日に生じたるに非ずして日韓の關係即ち合併の原因と見て宜いのであります、故に仔細に歷史を案ずれば疾くの昔に合併の事實があつて然るべき事と思はるゝ次第、如上御話をした處でも大要お分りになつたことゝ思ひます、只此合併と云ふ文字が誠に珍らしい物でありますから我國人は今更の如くに空騒ぎをいたしますけれども之を世界の領土擴張史或は殖民史に徴して見ますれば未だ以て大事件と稱するに足らないのであります我同胞たるもの宜しく大國民の雅量を以て餘り空騒ぎを爲すことを止め、徐ろに彼國人に貢獻の地位を與へ將來の策を講ずるのが目下急務であらうと考へます（完）

朝鮮人の參政權

朝鮮人に對し參政權並に兵役の義務を與ふべきや否やは識者の間に研究せられつゝある問題にして今後十年間はその權利を享有せしめざることゝなるべしと傳ふるものあるも事實相違にして目下總督府において種々調査研究中にあれば何れ右に關する政令を發布せらるべき由に聞けるが右につき外務當局の語る處によれば今後の朝鮮人は固より日本帝國臣民として日本人同樣の資格を有するものなれば當然是等の權利を享有し得べきも朝鮮には戸籍法の實施なきのみならず市町村制等の規定もあらざるを以て是等法律の制定せられざる間は當分例外として何等の權利なく我內地に來住するもたゞ內地に寄留するに過ぎずして日本に原籍を存する能はず故に法律の制定を待つにあらざればその權利を享有し得ざるべし去れど今後十年間は右權利を與へざるべしといふが如きことはこれなしといへり

滿鐵の外債募集

政府は今春日本興業銀行に命じ海外市場に南滿鐵道社債募集を交渉せしめたるが時恰も國債借換に際し南滿社債と該國債との衝突を來す恐れあるを以て一時交渉を中止せしめたりされど今や國債借換も一段落を告げ英佛資本家は何れも避暑地より歸來しつゝありて募債の好機會なるを以て愈々該社債四千萬圓を募集することに決定したれば興銀は英佛駐在委員に再び交渉を開始せしめたりと

朝滿の産業方針

拓殖局にては將來朝鮮及び滿洲に於ける諸般施設上の參考に資せんがため總督府及び都督府並に滿鐵會社等に對し産業其他の調査を囑托したるが同局にては近々特派視察員を朝鮮及び滿洲に出張せしめ産業上の新施設に關する調査をなさしむる筈にて苟も系統脈絡の通じ得べきものに就ては朝鮮滿洲を通じ一貫せる産業方針を執るに至るべしといふが調査要項の主なるものは（一）邦人、清人との勞働力比較（二）耕作地及び農園經營に對し清人との共同作用（三）團体の事業經營に對する保護的施設の程度及びこれと同様なる滿韓現在の計畫に對する利害關係（四）朝鮮及び滿洲に於ける工賃の高低並（五）朝鮮沿岸漁業の現狀並にこれに伴ふ金融事情等なりと

間島の新日本人

間島在住の朝鮮人に對しては日清協約により協定の居留地外は總べて清國の法權に服する事となり居れるが今回前韓國は帝國に併合され隨て內は條約の消滅と共に治外法權を撤去し又外は朝鮮人の資格を日本人と同一なりと宣言せるより自然間島在住の朝鮮人も同地在留日本人と等しく清國の法權外に立たざるべからざる事となれり然るに依然清國の治下に置くとせば日清條約上忌むべき結果を生ずべし則ち日本人が清國の法權に服する事となり國際上の大問題たるを以て早晩該協約の改訂を要すべしと云ふ

朝鮮民團の處分

朝鮮にたける我邦人居留民團は法人組織にしてその存置聯合一に統監の權限に屬し併合によりて今後は最早存置するの必要なく當然廢止せらるべきものなるも居留民團に於て各々諸種の事業を行ひ來り且つこれに附屬する財産並に民團債等もあつて直ちに解体し能はざる事情あれば當分は現狀のまゝとし事務整理の上總督府新官制の發表と共に處分せらるべしと

●朝鮮人の教育方針

朝鮮に於ける教育方針は漸進的同化主義を採るべしと雖も之れを最も有効ならしむるには施設の方法宜しきを得ざる可からず而して其施設方法中最も必要なるは教員の養成及教科用書の撰定にして當局者間には目下之に就て夫々調査研究中なるが兎に角今後教育の方針としては可成日本語を使用するの方針を採るべしと雖も其教科書としては直ちに國定教科書を採用し得ざれば總督府にては此際速急目下臺灣に於て採用せられつゝある現制度に做ひ總督府に於て該教科書を編成する筈にて其大部分は國定教科書に準ずべしと云ふ

●海外渡航朝鮮人數

本年一月より三月に至る三ヶ月間に於て朝鮮人の海外旅行券下附數並に海外渡航數を聞くに左の如し

渡航地	旅券下附數	海外渡航者
芝罘	八	八
上海	八	八
北米	二	二
布哇	四	四
獨逸	一	一
浦潮	四七三	八一一
計	四九六	八三四

俳句

●秋五句　多田千春

船で聞く東近江の砧かな
覗に似た羅漢見へけり秋の暮
朝寒や座敷を歩行きり〳〵す
關守のかぞへて居るや月の雁
啄木鳥に叩きまけたる大工哉

講談

大岡政談　越後傳吉

第六十八回　旭堂南陵講

始終聞總つた伴右衛門 仲『コリヤ〳〵急込んでは相成らぬ、心を落付け靜かにいたせ、然らば其方泉河原へ參り掛けに傳吉の屋敷を通り、血の足跡を見たと申すか 庄『ハイ左樣でございます 仲『相違ないナ 庄『ハイ 仲『上にたいて必ず吟味の上敵討はして遣はす、左樣心得い 庄『ハイ、何卒一刻も早う敵討を…… 仲『相解つたッ……』庄左衛門の願を下げておいて甫ぐと一方は泉河原の檢屍、一方は傳吉の召捕と、双方へ人數を別けた、此方は傳吉所ういよ〳〵災難が降り掛らうとは夢にも知らず、我宅に歸つて女房のお仙にも夢判斷の卜齋の話をして共に氣を注けなきやアならねといひ合ひ、その夜は寢込んだ翌朝、お仙が良人より早く起き出でまして其邊り取片付け 仙『旦那どん〳〵 傳『何だね、お仙や 仙『お前さま昨夜何うかしましたね、甚ア衣服血が附いて居りますだ 傳『アヽ、そりやアお仙洗ふて置いておくれ、何んな災難が翻るかも知らねから、實は昨夜泉河原を通り掛ると死骸が躓いてのう…… 仙『ハア何だか今朝戸外を通る人が泉河原に人殺しがあるといふたゞが旦那どんその死骸に躓きましたか 傳『ハア、松明が消ねて眞暗になつたゆゑ死骸に躓いて轉んだが、摑んだ血は能く洗ふて置いておくれ 仙『ハア宜うございます災難に遭つてはなりませんから、血は充分に洗つて置きませう」お仙が甲斐〳〵しう切戸を開けて水を汲み、衣服を盥に入れやうにする、その間に傳吉は起上り衣服を着更へ大陽に向つて拍手を打拜んで居るところへ、バタ〳〵〳〵ッ飛込で參りましたのは郡奉行から出張た役人 役『寶田村の名主傳吉』傳『オヽ、これはお役人さま』と云はせも果てずバラ〳〵ッと突如傳吉の襟髪を取つてそれへ引倒した 傳『是は私を貴役方 役『エヽ神妙にせい御用だ 傳『アレ、御用とはれる覺はない…… 役『默れッ、大膽な奴ぢや』吃驚したお仙は傍らに衣服を置いて 仙『モシお役人さまへ、それは何かの人違ひで…… 役『ソレ、衣服が怪しい、引揚げい』一人はその衣服を引揚げる、傳吉は直ぐと繩に掛る 役『百姓總代か、村役人を呼べ』傳吉に繩付き、お仙はアッと驚いてバッタリ其處へ座つたまゝ……この訴を聞いて宙を飛んで參つた甚右衛門に三右衛門 甚『ヤア、旦那どんをオッ縛つて何うなさいます 三『傳吉は人殺しの大罪人、吟味の廉あるに依つて郡奉行まで引立てろ、傳吉並びに實、下女心得い 傳『アヽモシ夫は全く何かのお間違ひで 役『ねゝ默らうッ』と早や繩尻を把て引立に掛る、お仙は身も世もあられぬ思で 仙『待て下さい、旦那どんは惡い事をする人ぢやねぇですから 役『ヤア默れッ、傳吉を手渡す事は固く相成らぬわい』お仙が駈寄らうとするをドウーンと突いた、突かれてヨロ〳〵ッと倒れる、傍から甚右衛門に三右衛門は 兩『お仙さんや、待たッせい、佛の如な旦那どんが罪に陷て堪るかね、ナーニ疑だ、直くに歸つて來るから、待ちなさい』右と左から止めるのでお仙も漸う氣を取直す、傳吉はそのまゝ繩にかゝつて引かれて參ります、郡奉行黑崎伴右衛門は一應吟味役までこの間に飛び出した 伴『私妻みよの父の庄左衛門の悴庄藏、その嫁梅は寶田村七ヶ村の大庄屋傳吉に殺され、既に駈込訴訟に依つて取調べ遣はすなれど何分傳吉の間柄、依估贔負の沙汰があつては相ならぬにより、立會ひ御役願ひたくこの儀をお願ひ仕つる』伴右衛門口には潔白を裝ふて居ります、已れ一存では傳吉の處刑が行ひ難いから誰か立會つて呉れといふ、その時分越後國頸城郡高田戸田能登守、スルと重役衆より『其方役名の潔白を以て調べるとあれば、郡奉行たる汝の外立會の要用なし善惡邪正潔白の調をいたせ』との仰せ、此方から立會つて呉れといふから重役の方では、斯ういふ位ゐならんで、伴右衛門占めたと思ふた、檢屍役人は泉河原の檢屍を濟ませまして、死體は庄左衛門の悴や嫁に違ひないといふので、庄左衛門、早の方へ下りましたから、村の檀那寺へこれをば假からに葬ひをする、何しろ首のない死體だ、一方は直ぐに傳吉をば白洲へ廻しました。



京城新報

朝鮮人教育の根本義

精神的奴隷と爲すは不可

併合後に起るべき各種の問題中、朝鮮人教育問題は其の最重大なるもの丶一である、去れば多くの大家及當局者の意見が連りに發表される、余輩は以て國家に忠實なる所以とし、且つ其の意見の何れもが一面の理を有するが故に此を取り彼れを捨てんとするに非らず幷に參考とするに足るものと思ふ、特に寺内統監が普通の軍人ならず、又普通の行政長官ならず、經世家の色彩を帶びで、朝鮮人の教育若くは宗教問題に就て考慮を費し同時に何か施設する處あり々聞くは余輩の多とする處である、併しながら古諺に云へる如く餅は餅屋、酒は酒屋だ、寺内統監如何に萬能力を有すとは云へ、其の軍事又は政治に就て秀でたるが如く、教育の事に關して同樣の善能を有すとは思へぬ、仍て余輩は此際教育問題に就て一言するは統監の施政を補け、操觚者として國家に盡す所以なるを信ずる。

聞く寺内統監は儒教を基礎として朝鮮人を教育せんとすと、然るに儒教は今日の世界に於て國民を道るに果して適當なりや否やは、殆んど問題とならざる位である、成程儒教は苟且に考ふれば朝鮮人に適するが如きも、二千年來儒教を以て立てる朝鮮人は、世の進運に後れ今日の狀態に在るでは無いか、今朝鮮に衰微したる儒教を再興するは朝鮮人を復活せしめ向上發達せしむるものと思惟するは謬見らしき謬見である、恰もアルメニヤの古代に耶蘇教を信仰されたればとて既に生命を失へる今代のアルメニヤ人に耶蘇教を復活せんとし、而して之れを其の効ありとすると同理である、何の是も無く又可も無いのである、何となれば、一体儒教は封建時代に最も善く適合するものと余輩は信ずる、其の性質よりすれば治者の都合に好く被治者をして常に治者の意のまゝに服從せしめんとするに適する教へである故に今儒教主義を以て朝鮮人に臨まんとせば先づ朝鮮に封建の制を布くを要する、併し开は恐なる考案である寺内統監が果して然る考案を有せりと思はゞ容易ならざる不敬であらう、余輩は之れを爲すを欲せぬ、タヾ余輩は、爲政者が自己の都合のみに腐心して、被治者の向上發達或は大にしては國家將來の大利害を遺忘すべからずといふのだ、余輩は固より、近き將來に於て朝鮮人に參政權を與へ、若くは徵兵令を發布さるべしとは思はぬながら、其の途に斯る時代に到達すべきものとし、到達せしめざる可からざるものと信ずる、換言すれば被治者がタヾ從順に治者の言に聽き、精神的に奴隷と成りて、發達向上の意志を銷磨するに至らば、到底經濟上の發達を遂げ財政上の獨立を爲し或は兵役の義務を負ひ、内地人と相駢むで世界に馳驅するの期無かるべきを虞るゝのである、於此余輩は儒教主義の教育を朝鮮に施すは爲政者が一時的の便宜に依る姑息の計畫にして、他日の大計を定むる所以に非らずとして斷じて之れを斥くる。

抑も我國が世界に比類無い急速の進歩を近々五十年間に成したる其の根本は如何、其遠因を尋ぬれば種々有るであらうが、近因は之れを一言にして言へば西洋文明主義の採用咀嚼に在るのだ西洋文明主義と云へば「西洋」なる兩字が耳障りなるも、名は兎もあれ世界に產れたる最高文明を採用したる賜である、即はち上 陛下が進歩主義を嘉納あらせられ、先覺者が御聖意を奉体して西洋文明を輸入されたるに因るのだ、然らば既に我に行ふて善良なる結果を得し處のものを以て朝鮮に施さんに何の不可なるものあつて儒教主義を採せんとするか余輩は其理由を知るに苦しむのである君!朝鮮が彼の西藏の如く交通極めて不便なる山中に僻在せば兎に角、三方海を圍らし、一方は大陸に接して鐵道は直ちに歐洲に通じ容易に近世文明の思想に觸るべき狀態に在るでは無いか然るを古さく儒教を再興し、以て朝鮮人を教育せんとするは、恰も大院君が自國の位置を識らずして攘夷主義を唱へしと同一轍である、要之、朝鮮人を同化せんと欲せば、而して忠良なる愛國者たらしめんと欲せば、自己が既に用ゐ古して棚上にあげたる儒教を當行ふのは惡るい、我内地人と同樣の教育を授け、彼等をして向上發達の念を發はしむるを必要とする、姑息なる儒教主義の教育は徒らに朝鮮人をして事大主義に執着せしめ、奴隷根性を馴致するのだ、決して眞正なる日本帝國の臣民たらしむる所以で無い

東京電報

▲**千葉縣下の大火** 其筋に達したる公報に依れば昨日千葉縣佐倉町に出火し宗吾神社の靈堂を始め附近の學校役場民家等百餘戸全燒し慘狀を極む(六日)

▲**岐阜縣下の洪水** 岐阜縣下神淵村浸水し死者四十七名行衛不明者六十名に達し家屋の流失多數に上り慘狀見るに忍びず(同上)

▲**伯爵同志の妥協** 伯爵同志會非同志會の兩派妥協關係緩和し愈々近日中交渉を開始する筈なるが久しく紛糾せる問題も圓滿に解決すべし(同上)

▲**日墨博の好景氣** 墨西哥公使の電報に依れば日本博覽會は九月二日大統領内閣員參列開會式を舉行し午後より公開目下の非常に好景氣なれば出品人何れも滿足せり

▲**白瀬中尉の憤慨** 南極探險を延期せし白瀬中尉は憤慨して割腹せんと恐ひしも國民の同情を思ふて忍べり今後如何なる障碍ありとも目的を達すべし若し仕損ずれば割腹すと云へり(同上)

上海電報

▲**大成丸の沈沒** 厦門シン州間を航海する日本汽船大成丸沈沒し乘客二百名溺死せり(七日)

寺内統監の招待
(倫敦タイムス記者)

寺内統監は七日正午より來京中なる倫敦タイムス社外交部副主任プレアム氏を官邸に招待して午餐會を開き韓國合併の經過其他朝鮮の事情に就き會談する所あり山縣副統監、明石司令官、有吉長官小松外務部長兒玉秘書官津野中佐菱田囑托の諸氏も列席したり

恩賜公債規則 全文

大藏省令第四十二號を以て制定せられたる恩賜公債規則全文左の如し

第一條 明治四十三年勅令第三百二十七號に依り發する恩賜公債證券は大日本帝國政府五分利公債證書とし其の證券には記名を付せす

第二條 本公債元金償還は發行の時より五年置き向ふ五十ケ年間に抽籤償還す

第三條 本公債の利子は恩賜辭令書の日附の屬する月より之れを附し元金償還の時は其償還の月迄で之を附す

第四條 本公債の利子は毎年三月及九月に於て其月以前六ケ月に屬するものを支拂ふ

第五條 本公債の利子は日本銀行及其の代理店並に朝鮮總督府の特に規定したる郵便局に於て之れを支拂ふ

第六條 公債の登錄、登錄除却又は質券に關する登錄を請求する者は其の請求書に朝鮮總督の認可書を添附すべし

但し相續に依る登錄に就ては此の限に非す附則本令の規定に依るもの丶外本公債取扱に關しては國債規則に依る

小宮次官以下廢官

七日の總督府官報にて統監府參與官小宮三保松、同通譯官多田桓、理事廳副理事官青山捲治郎の三氏は韓國宮內府廢廳の結果として廢官となれる旨公表されたるが小宮氏の參與官たりしは宮內次官たる上より當然任命されしなれば宮內省廢廳と同時に次官の資格も消滅せし次第なれば從ふて參與官も廢官と爲りたるなり次に多田、青山の兩氏は素と韓國側官吏と爲るに就いて特に統監府の官たる資格を賦與せる者にして即ち人の爲めに官を設けたるにて之れと同時に統監府側官吏たる資格もあれば之れ又宮內省廢廳に從ふて失官し自然消滅して今回の廢官と爲りたる也

特種公債と教育

朝鮮の經營及び臨時恩賞に充つる爲め政府の發行せる特種公債は其一千三百萬圓を王族貴族及び一般功勞者に對する賜金となし一千七百萬圓をば各府郡に分配して新教育の基金並に勸業費等に充用せしむる筈なるが其の分配額は各郡約五萬圓にして地方により特別の情狀あるもの丶外は質入抵當等なして資金の流用を禁止すべく該公債をば當該官廳に於て保管し年々其の利子二千五百圓のみを流用せしむる由にて當局監督官廳の意思は專ら學校の經營に重きを置きて少なくも一千五百圓前後を教育費に投じて模範的學校の維持設備を計り或は寺小學式の群小私塾を併合して改善を行ひ有能の儒生は夫々優遇して教師に採用するなど極力新教育の普及を企圖し其他を以て各地の救恤產業の保護道路改修等の基金に充用する筈なりと云ふ

●**外人間の未了事件**

治外法權撤去せられ今後朝鮮內地に在住する外人は總べて吾が法權によりて支配さるゝ事となりたるが唯だ此過渡期に於て未了の懸案存在せば這は依然其儘所管領事に於て處理する筈にて此旨小村外相は各國へ宣言せり而して目下京城駐在列國領事館に於ける該未了懸案を聞くに刑事々件に就ては過日山金礦機械技師ハーツー氏が日本人某を毆打し創傷を負はしめたる事件にして現に同氏は米國總領事館に拘禁せられ更に保釋を許されて審問續行中のもの丶みなり其他に於ては刑事々件は全然皆無なるが尚は民事々件に關して英獨佛各領事館の各一件づゝ及清國總領事府の十一件なるのみにして事件の性質は總て土地及貸金等に關する最も輕微のものなりと云ふ

●**京城郵便局扱金高**

八月中に於ける京城郵便取扱爲替貯金其他左の如し

種別		枚數・件數	金額
爲替	受	三、二四六	金二三四、八一七、六〇〇
	出	四三、三四五	七六三、三〇〇、一七五
貯金	預り	一、四三六	金一一、六七七、三八三
	支拂	五二七	一一、八三〇、二二六
外國爲替	受	三五	金一〇一、七三六
	出	五七	一八三、一〇七
取立金	受	三五四	金五、五〇八、二〇四
	出	一、二九五	八、五六八、八〇五
振替貯金	受	二六三	金一三三、五六九、三五五
	出	八四	四八、九七三、七九八

國庫金額 歲入金額 三五、四三六、六九六 歲出金額 一、五六九、五三六

年金恩給拂渡高 一、三二一件 一、五〇〇、〇六 一二五件三九六、九一

小包取扱 引受 三、六九三 配達 五、六六九

●**特許局官吏の廢官**

統監府特許局は過般廢止されたる結果として同局長木内重四郎、同事務官人見次郎、同技師兼審查官安藤格、同審查官松田金之助、同有賀啓太郎、同白井良一、同審查官兼技師塚本信治、同審查官補大橋勳、同神野金之丞、同尾太治平、同北島友次郎、同屬宮定平、同山中榮吉、同萬田利雄、同伊藤正懿の諸氏は今回廢官となれり

●**小荷物の代辨通關**

内地並に南滿洲鐵道株式會社線發送の小荷物手荷物は從來釜山新義州安東縣に於て通關手續をなしたるも本月十日よりは大邱南大門仁川平壤新義州及び馬山着の手小荷物は右各到着驛に於て代辨通關手續を施行す

●**總督府官制の決定**

先日來屢々審議を重ねつゝありし總督府の官制は愈々六日の參與官會議に於て決定したるを以て石塚參與官は兩二日の內該案を携へ上京の筈なり

●**關釜連絡船の運着**

六日朝釜山出帆馬關着の連絡船會下山丸は海上暴波の爲め引返し七日出帆の壹岐丸と一同に出帆したり又七日朝釜山に入港す可き薩摩丸は定時入港せず多分暴風の爲ならん

●**井上前主幹出發** 日韓電報通信社の前主幹井上藤三郎氏は七日朝南大門發列車にて歸東せり見送人は玄角保安課長新聞通信記者其他數十名なりしと

●**澤田局長の引籠** 內部地方局長澤田牛麿氏は六日來風邪の氣味なりしが七日後官邸に引籠りて專ら治療中なり

●**國分哲氏の廢官** 統監府通譯官國分哲氏も韓國內閣廢廳に依り小宮氏以下と同格に七日の官報にて廢官せらる

●**佛國副領事轉任** 京城佛國總領事館任勤副領事デュフォールド、ラ、ブラード氏は今回清國廣東に轉勤せり

●**南大門驛乘降客** 六日の分如左 乘車客六二二、下車客七〇七

●**龍山驛乘降人員** 六日の分如左 乘車客一九八、下車客二二九

兩鐵道の起工期

三南線の入札工事は本月二日舉行の筈なりしも都合によりて來る十日に決定し京元線は本月下旬乃至十月初旬入札の由にて三南線の土地は既に買收濟となり京元線は時局のために財務署及漢城府等にて事務多忙なりし爲め決定するに至らざりしが土地使用の承諾書は既に取付ある故愈近々工事に着手すと

寺内子と本願寺

過日本紙が大阪每日より轉載せし記事に因れば寺内子が京城本願寺布教監督龍山嚴雄師に基督教排斥の目的を以て佛教を弘布する件に付一書を送りたるが如く世間に傳へらるゝも右は全然誤聞にして寺内子は今日迄佛教弘布の件に付本願寺と何等關係を有せし事なく從て龍山師に一書を送りたることなしと云ふ尤も斯は某氏の談話に因るものなるが眞僞は其中判明せらるべし

實業視察團來期

釜山東洋拓殖會社にては朝鮮農事經營の爲め三府三十七縣より篤農家四十名を招來し實地視察を乞ひしは既報の如くなるが愈々十月二日釜山着同地にて諸事打合せを爲し三日同地出發馬山、木浦群山其の他各地を經て十七日京城着當地に二日間滯在十九日發京義沿線を視察し歸途に就く事に決定せり因に東拓會社よりは重役一名社員を派し實地に就き說明を與へ且つ沿道其他に就き出來得る限りの便宜を計らんとて目下準備中なりと

●**兌換券發行高增加**

韓國銀行の兌換券發行高は近來一千四百萬圓臺を拔くに至りて未曾有の增加を呈し居れるが此現象は冬物の仕込と米穀の取引等盛んに行はるゝが爲めにて例年本月頃は發行高の增加する時季なるも斯の如く多額に發行したるは朝鮮經濟界の膨脹に基くものにて今後の狀況は益々增加の傾向あり殊に本年は稻作豐穰なるにわらざるも作付反別例年より多きを以て昨年以上の增收あるは當局者も豫想し居れることにて此原因は昨年に比し畓一反歩當り收穫少額なるも本年は雨量の多かりし爲め數年間植付を爲し得ざる所に植付を爲したるにより全國を通じて增收あるに至るべく此模樣よりすれば本年秋季を了へて歲末に至らば二千万圓臺に至るならんと云へり殊に併合條約締結の結果は內地商人の續々入込む者あり又は種々の事業に投資する者も增加すべきに付き發行高は愈々增加すべしと云ふ

●**實業家等の朝鮮觀**

六日夜歸來の木村韓銀理事の言に據れば內地實業界の併合後に於ける朝鮮觀は頗る良好なるのみならず亦た頗る堅實に入れるが如し今や從前の如き一攫千金を夢想する如き危險なる志潮は殆んど跡を認めず何れも質實なる志望を以て此新領土に莅まんとし其多くは土地を買收し徐ろに農事經營を試んとする者の如し低利なる本國の資金を輸入し此枯渇せる朝鮮を潤さんとは多年の希望なりしと今や空前の盛事を昇して茲に現實の緒を啓くに至りしは邦家の爲め慶すべき事ならずや云々

●**代書業者の大恐慌**

辯護士にあらずして訴訟代理をなし又は債權の取立仲裁等をなす者近來漸く增加し其弊も亦少なからず且つ斯の如き行爲をなす者は多く代書業者にあるを以て警務總監部にては此際代書業者取締上に就き近日細密なる規則を設け以て斯弊を一掃することを期すべしと

●**增水と馬山線連絡**

馬山起點十七哩の所に於て一哩餘軌道浸水したる事は既報の如くなるが七日午前六時には軌道面上二尺洛東江水面上二丈一尺三寸に增水し又六日山崩れにて不通となりたる個所は七日午後二時頃復舊の見込にて復舊と同時に浸入個所一哩間は渡船連絡を開始し旅客手小荷物のみ取扱ふ筈なりと

●**南龍間列車の變更**

午後二時四十分南大門發同二時四十六分龍山着及び午後二時五十五分龍山發同三時〇一分南大門着の運轉列車は九月二十日限廢止し龍山發午後四時三十分同四時三十七分南大門着の運轉を二十一日より施行す

●**三井物產落成祝宴**

三井物產會社京城出張所にては豫て新築中の本町一丁目事務所落成したるを以て六日午後六時より官民を招待し盛んなる祝宴を張れり

●**紐育大學總長出發**

滯京中なりし紐育大學總長マクラケン氏夫妻は九日當地出發安東縣を經て歸國の途に就く由

公人私人

▲勝部國臣(農商務省參事官)六日入京京城ホテル

▲出淵勝次(獨逸大使館書記官)巴城館

▲長谷川義雄(鎭南浦新報社長)入京中の所六日鎭南浦へ

▲**京城手形交換高**▼

九月	金高	枚數
七日	五七、四九一、三二	四八九

▲**仁川米豆取引所**▼

▲前場(七日) 十月限一節なし▲二節九圓二十五錢▲三節二十五錢▲十一月一節八圓四十五錢四錢二錢三錢▲二節四十五錢二錢一錢▲三節四十一錢▲一方出來高三千百石

▲**大阪期米電報**▼

▲前場(七日) 九月限寄十四圓▲十月限寄十四圓二十九錢▲十一月限寄十四圓二十三錢

▲**仁川港の出入船舶**▼

▲神代丸 八日大阪より入港

▲**治外法權**▼

半島の目下は總論の時代だ、政治、經濟、宗教、教育等皆抽象的に論せねばならぬ、併し暫くすると總督府官制が發布される、總督府がホントーの仕事を始める、ソレカラ愈各論にハイル▲半島の合併、朝鮮人の同化、茲迄は當局者と記者とは意見を同ふした、サテ之からも一シヨに行かれるかドウカ▲云ふまでもなく合併は日本の利益の爲にしたのだ、併し此利益は公明な利益で隱すには及ばぬ、サテ此利益を完全に收める爲に朝鮮及朝鮮人をドウすれば良いか、之れが大問題として研究すべきものだ▲今日の社說にもある通り朝鮮人を從順にし卑屈にし只冶め安い樣にさへすればソレで目的が達せらるる樣に思ふのは大間違だ、真に公明な大利益を收めんとするには教育上には向上發達、社會上には相互主義を以て半島人を誘導せねばならぬ▲今度領事裁判が廢止さるるに就いて監獄改良の議が起つたソウだ、當局者の泥縄主義はイツも此通りだ、記者は曾て監獄問題に就いて當局と大に爭つた、其後少しは改良したかと思ふと今でも矢張り十二尺四方の監房に五十人詰だ▲此頃は大赦の爲に少しは在監者が減つたが先達中は獨立門監獄の如きは定員以上であつた、監房の不足の爲に誰れの發明かは知らぬが署内の空地に針金で圍が作られた、其圍の中へ多數の囚徒が丁度豚の樣に入られてあつた▲破獄、ソレを企つる者があれば容易である、巳に獨立門監獄にも一二回破獄があつた、兇暴なる囚徒がイツ何時破獄して來るか知れぬと思へば公衆にとつては危險な事だ▲監獄の臭氣、之は甚だ有名なものだ領事裁判廢止と共に此臭氣も廢するようにしい。

▲**仁川米豆取引所**▼

▲前場● 九月限止十四圓二十六錢▲十月止十四圓三十錢▲十一月止十四圓 六錢

▲後場(七日) 十月 九圓四十三錢五錢▲一方出來高五十石

▲**大阪期米電報**▼

▲後場(七日) 九月限寄十四圓三十四錢▲十月限寄十四圓大三錢▲十一月限寄十四圓二十七錢

●**官煙益々好望**

諸種官煙中朝に京城は內地人との關係多き爲め自然 … に至りては口付の需要も漸く地方に擴大されんとするの傾向あれど何分價格高きに過ぎ一般の希望を滿し難きの て供給先は主として地方なるが口附さしては朝日實行最も良し而して口付は前者に反し京城を中心とせる … 本省の認許する處となりたるを以て最近內特に二種の口付製造に着手さるゝ筈にて目下夫々準備中なるが要するに

●**朝鮮農會の品評會**

朝鮮農會第一回品評會は來る二十八日より十月二日まで京城黃金町農商工部 … 品にて出品者は至急出品目錄を提出すべしと云ふ

●**龍山の下水修繕費**

京城民團龍山出張所にては今回雨後下水 … 當せるを以て下水修繕費に當てん爲め道路修繕費豫算三千圓を之に流用せんと目下詮議中なりと

▲仁川米豆取引所
▲前場 九月限十四圓二十六錢▲十月限十四圓二十錢▲十一月限十四圓六錢
▲後場(七日) 九月限十四圓三十四錢▲十月限十四圓三十三錢▲十一月限十四圓二十七錢

▲大阪期米電報▼
▲後場(七日) [illegible] 九圓四十三錢五錢▲ [illegible] 石

●官煙益々好望 [illegible]に京城は内地人との關係多き爲め自然[illegible]して供給先は主として地方にあり[illegible]しては朝日敷島も良し而して口付[illegible]京城を中心とせり輿覧する[illegible]に至りては口付の需要漸く地方に[illegible]大されんとするの傾向あれとも何分價格高きに過ぎ一般の希望を滿し難きの[illegible]嗜好に適合すべき煙台に[illegible]本省の認むる處となりたるを以て最近内地に二種の口付製造に着手さるゝ[illegible]目下夫々準備中なるが要するに官煙の前途は洋々として希望に滿ちた[illegible]



大漢門から明治町

▽九月七日午前五時半より毛橋通り(大漢門通り)の溝渠の修築工事が初まつた、非常に直角に曲折した所がある如だが直線には出來ぬ事情もあらうがモ少し圓味を附けたらと思はれるが夫れは餘りに慾な注文かも知れぬなぞと思ひ乍ら元西川盛文堂の居つた長谷川町角の所へ立ち止まつて考へて居ると新町井門支店の印袢纏を着た人が自轉車に乘つて毛橋の方から來る、と荷車を曳いた牛がヌツと擦れ違い樣に把手を押ねた手の所へ角を出した、自轉車乘君聊か狼狽氣味に馳せ去たのを暢氣に見送つて美洞派出所の方へ折れる、派出所の前には虎髯厳めしき査公が立つて御座る背後には種々の草花が彩に美しく秋――ウソ寒の朝の秋を飾つて居る、山の手の釣瓶棹の如く長い〳〵竹を提げた人が背後から來る横町や露路や家根を覗いたり見上げたり小栗栖に光秀を覗ふ一作の形だ何うしたてとかと思ふと尖の方にモチが着けてある跡から跟いて行く二人の内の車夫体の人が碇綱の如な荒繩に雀を一羽と胃散の空罐――モチを容れたのだらう――を提げて行く鳥差しだナと悟つた時分にはモウ其の人は鋼瓶派出所前を南大門の方へ行く僕は電車線路を踏み切つて派出所の横を黄金町に入る東拓の敷地が燒け跡を見る如無慘に荒れて居る統明館と云ふ下宿屋から南山は眞正面だ一寸立ち止つて頂を仰ぐと蒼く碧く澄み渡つた大空の底の底の方に星が一つ眞珠の如な柔かな光を放つて居る明治町に入る、日の丸館の二階の戸を繰つて居る十八九の女がある頗る眠む相であるれ氣の毒だが何うにもならない、其の續きの空地の家臺店に蒲團を敷いて膝を抱いた老人が瓢箪の尻の如た頭を朝日に輝かして居る美事なものだ一つ感心して歩を進める福田と云ふ魚屋の四方硝子の箱の中に魚はなくて大きな氷の塊が風呂敷を冠つて日向ボッコをして居る斯う秋風が立つては如何に寒さに馴れた氷でも風呂敷を着て日向ボッコ位はさせなくては可愛相だ、して見ると福田君の行爲は博愛仁慈、傷氷塊に及ぶとでも云ふべしである、其の列の中尾さんと云ふ刀劍商の店には金筋丸腰のれ役人が顔飲の嚢に入つた洋劍を物色て御座る、君!彼の人が氣でも狂つて引き拔いて斬り附けられたら大變と急いで通り過ぎる日韓印刷會社の前でフト振り返ると例の二本筋の人が來るソラこそとヒヤツとしたが見れば刀を持つて御座らぬのでホツと息を吐いた、意へらく、役人にでもなる位の人は偉い乾度アノ刀を見て居る内に若し俺が氣でも違ふた場合此れを持つて居ると他を傷け己れを過つかも知れぬと考へ付いて買ふのを見合せたのだなぞ、此にも一つ感心して浪花館の前へ蒐ると向から最前の鳥差組が來る、見ると雀は四羽になつて居る三人掛りで朝の二時間に雀四羽の獲物、決して多い收獲ではないが又決して無意味でない、然り決して無意味ではないと思つた。(ぼく)

宣教師も又人間

▽宣教師宣教師を欺く

京城東部蓮花坊金光淵なる者は米國の某神學校を卒業し基督教宣教師の免狀を受け歸國以來熱心に布教に從事し居る内明治四十二年八月中英國人牧師グリームヒルトなる人が基督信者の爲め私立學校を建つるに就きては東部蓮花坊慶善宮持の土地一千坪を購入したき意思ある事を聞き込み知友朴基洪なる者と共謀しグリームヒルト氏より金員を騙取せんと事を企て同人の雇人なる廉昌に對し右土地一千坪の賣買方に付所有者慶善宮に交渉したるに代金三千五百圓にて賣渡す事を承諾し自分等に賣却の委任を爲したるに付其賣買契約を締結す可く而して右土地に對する文券は代金を上納したる上にあらざれば受取る事能はざる旨を語りたるにグリームヒルト氏は勿論雇人廉俊昌等も金光淵か基督教信者殊に宣教師の事とて信用し同年九月十六日朴基洪方に於て金三百圓を渡し同月二十日殘金三千二百圓を渡したるに全く詐欺に出でたる事判明せしに因り其筋に拘引され第一審裁判所に於て懲役七年に處せられたるに控訴申立を爲し京城控訴院に於て總裁判長草場檢事の掛りにて昨七日公判開廷ありたるが次回公判に於て判決言渡す可き宣告ありたるが不埒なる宣教師と云ふ可し

犯人又々就縛

▽鐘路警察所員殺しの同類

鐘路警察所主任巡査箕浦謙、所員濱田福馬の兩氏を慘殺したる兇漢七八名の内二名を逮捕したる事は既報の通りなるが其後所員總出にて一意犯人捜査に從事し一網打盡せんとの意氣込盛なりしが又々同類者の一人が捜査線中の浮浪中を取押へたりと四日其筋に急報ありたりと

併合夫婦、渡來

▽斯うなりや立派な日本人

大阪市東區宰相山町眞田山近傍に住む飴賣れ高といふは本名を中村たか(三五)と稱べるが早くより朝鮮人中村玉次郎(三五)と夫婦になり玉吉(五つ)と云ふ伜まで儲て居るが是迄は近所の者等より朝鮮人と夫婦になるとはよく〳〵の女だなどゝ後指をさゝるゝにつけても玉次郎も心外に思ひ居たるが今回愈々韓國併合から朝鮮人たりとも今日から立派な日本人となつたので玉次郎は大いに喜び斯うなれば何も憚る所はないと例の朝鮮髷を早速チヨン切つて散切頭となつてしまひ妻子を連れて朝鮮の故郷へ一先づ引上ぐる事になつたりとは芽出たし〳〵

爆發物取締變更

▽銃獵石斫り等自由となる

時局解決の際警備上の必要より近郊に於ける銃獵、石斫り等總て爆音を發するものは當分使用を禁止する旨警務總監部令を以て告示せられたるが既に其必要なきを認めたるを以て右部令は廢止せられたり尚は軍隊に於て或は發火演習等を行ふべきこともあるべければ一般に於て豫め心得置き動搖すべからずとなり

●朝鮮人四十九名 三日午後三時大阪梅田驛着下り列車にて四十九名の朝鮮人がゾロ〳〵降立ち北區東梅田町旅宿北陽館へ投宿せしかば時節柄曾根崎署にて取調べたるに此の一行は朝鮮工夫の亂暴として既報したる京都府宇治郡志津川村西村組出張所の下受負井上香吉の手にて同村字治川水力電氣會社に使役せられ居たるが平素賃銀の不拂に業に堪へざると此程井上の解雇さるゝと共に一行も亦た雇を解かれしが賃金は全部支拂ひあるより井上組にては一行歸郷の旅費として百圓を與へたるに渠等一頗る不滿の躰にて去月廿九日の夜の如き既に不穩の動に及ばんとせしを所轄醍醐警察署の署長が仲裁し結局圓滿に和解したる結果三日當川口の汽船にて歸國する事となり内六人は汽車にて神戸に出で乘船したるも殘る前記の一行は更に大阪に足を停め職業を有り附かんと汽船切符賃の拂戻しを請求せしより曾根崎署長が中に入りて拂戻さしめたりと

●情夫の營業妨害 北米倉町に榮福樓と云ふ魔窟ある事を知らぬとて敢も不都合にもあらざるが不都合なるは同樓の酌婦山口縣八はる子事木元まつ(二四)と彼の情夫窃盜前科付博徒島間新太郎(三〇)となり酌婦まつは永年間の賣春婦にて仲〳〵の凄腕を有し一筋縄にて行かぬ代物とて諸所の料理屋飲食店にても三箇月と續かず鞍替を爲し本年四月前借百二十圓にて榮福樓に抱へられし以來最初は眞面目に働き居りしが無類漢島間に夙くより深き關係ある事とて病氣だのやれ何だのと職業に從事せず此の頃に至り前借金を踏み倒さんと種々なる惡計を廻し島間は營業妨害するとかにて樓主は後難を恐れ等閑に附し居るを其筋の刑事の探知する所となり目下高間の行衛捜査中なりと

●溺死体の漂着 昨七日午前八時仁川稅關倉庫前の海中に男の死体漂流し居るを稅關吏が發見したるが年齡三十四五歲位身の丈五尺四寸あり身には白立縮みのシヤツに瓦斯白地カスリの單衣を紹縞無地の羽織を纏ひ居るも死後二週間位を經過し顏面腐亂し居るも一見中流のものなるべく懷中には紙幣銀貨にて三圓を所持し外に何の手掛りもなく右の袂に經四寸位の石を入れ麻繩にて袖と胴を縛りたる處より察すれば覺悟の自殺なるべく何れの者とも判明せず例の通り民團役所へ引渡す

●騙取金六十五圓 曩きに營業停止を受けたる明治町一丁目の口入業明治屋の店員櫻井薫が諸所に迷惑を掛け居る事は屢々耳にする事ならが彼は長谷川町料理屋菊の枝樓主を詐き金六十五圓騙取したりとて告訴され行衛をくらまし逃走中なりしが其筋に於ては尚ほ餘罪ある見込にて所在捜査中の所六日長野刑事の手に逮捕され目下取調中

●南浦の虎病 大阪大家七平氏の所有船喜滿丸が鎭南浦へ入港の際三名の擬似コレラ患者あるを發見し患者は直ちに稅關治療所に收容し船には嚴重なる消毒を執行せしが其後排泄物に對する檢鏡の結果によれば陰性にしてコレラ患者に非ずと認定されたり

●投棄 七日午後四時仁川龍洞一統七戸曾英漢なるもの販賣し居たる桃五十二個は腐敗に傾き居るを以て投棄

●賣島遊客 三十四人で百二十二圓七十一錢を費消せり

目と耳

▲歌舞伎座 合同劇八日の代狂言御祝儀「乘合船」一場「鴨宅祝ひ」四場「壺阪」二場「ロストホーム」三場大切「大阪名物二輪加相撲」懸賞品淨山穴さかし

▲壽座 大島太夫一行八日の番組 御祝儀寶入船(登太夫)八陣八ツ目正本城之段(初音太夫)伊賀越二段目圓覺寺の段(組代太夫)心中天之網島新地茶屋之段(里太夫)御所櫻三段目辨慶上使之段(組榮太夫)櫻鍔恨之鮫鞘たつまき八郎兵衛鰻谷之段(大島太夫、糸豐澤猿次郎)

▲仁川竹園座 廣八一座八日の語り物左の如し

御祝儀寶の入船(入登)朝顔日記舟別れの段(廣吉)太功記十段目本能寺の段(綾演)東天紅(此重)三十三間堂平太郎住家の段(此千代)鏡山五段目又助住家の段(仙春)日吉丸小牧山城中の段(隣照)日蓮記御作住家の段(越春)忠臣藏八ツ目本藏下屋敷の段(廣八)れ半長衛門帶屋の段(惣掛合)三味線(仙平)

大島太夫聽く

▽壽座に開演中の大阪堀江座の重鎭竹本大島大夫一座は大連より歸坂の途次六日より三日間當地壽座に開演と云ふので前景氣頗る宜敷、六日初日にも不拘九分通りの大入であつた、評者の覗いた時は丁度組代太夫の「忠臣藏殿中」の總り頃であつた、此太夫非常な大音量で言葉はシッカリして居るがまだ〳〵若い處がある樣だ併し少しばかり聽いたのだから能くは別からぬ、次に里太夫の「長吉殺し」は頗る面白く聽いた、一体器用な語り口で婉曲りも隨分甘い、併し聲を痛めて居るものか張りの處杯は誤魔化し樣は隨分苦しそうだ、ろうかと思ふと地の開き杯は更に聲が痛んで居る樣でない或は先天的の聲かも知れぬ兎に角語り口は巧者で隨つて向受のする方だ、次に組榮太夫は大島のスケとして大分物足らぬ、併し体格に似台はぬ優しい聲や艶もある、淨山ある、當夜は「吉丸三」を語つた、最初のサワリの處杯は喝采絶間なく、五郎助の腹も申分なかつた、一体此太夫は腹は薄い方だが艶もあり聲も器用に遣ふので腹の缺點を補つて居る處は大分修業を重ねて居る樣だ、次は目的とせる大島太夫、評者は七八年前まだ生島と云ふ時代に聽いて今度久し振りに見て如何にも老人になつて居るのに驚いた、さて語り出すと是れは又其老熟して居るのに敬服した、當夜は「三勝」であつた、半兵衛や宗岸の重々しからぬ豪酔音通聽き馴れたものとは全く趣きが違ふ殊に表情の甘いこと、れ圓のサワリも伊達太夫等の如くケレンは言はずシンミリとして面かも輕妙である、半兵衛、咳入りも眞に迫り聽者は何れも魅せられて居た、殊に音量は多く復は強し終始一糸亂れざる處流石は斯界の驍將である、只聲の變化が聊か乏しいのは惜むべきだ●猿之助の糸は益々冴へて來た(一記者)

社告

併合記念號發刊
京城新報社

●多木肥料工場增築落成 我國人造肥料界の覇者として他の製肘を受けず鋭意事業を張り獨立自營以來肥料硫酸部の兩工場增築を企畫し昨年以來增築中の處先月末工事竣工し愈々製造を初めたれば右增築工場に依り生產高數倍を增加し將來益々大活動をなすべく計畫より尚引き續き擴張中にして材料蒐集中なれば年内には又一箇所の工室を增すと云ふ又同所々有の能登鑛山に於ては内地產燐鑛として未曾有の鑛量を有し品質又佳良なるが明治卅七年之が採掘を初め回巾五六十間長さ一哩餘に亘る大鑛脈を發見し目下盛んに採掘中なれば外國產燐鑛の輸入を防壓し國家經濟上頗る利益あり而して同所にては右燐鑛石中の燐酸成分を獨逸式により再製し外國產燐鑛と同樣の働きをなさしめんとて之が機械の準備中なれば完全の曉には我邦人造肥料界に一大革新を來すならん

今日の運勢

九月八日舊八月四日三碧●大安丙子△一白●金曜の業務に吉疑滯若くは威壓に遭ふあらんとす△二黒●開店起業動產の事貸借に忌む建築動土に吉△三碧●新事旅行婚談集會結社に凶家族家庭の事痛心あり△四綠●軋轢紛爭多き日とす色情痴情の破れを戒しむ遺失防ぐべし△五黄●建築動土に吉新事旅行婚談見合せの事△六白●金談貸借請願談話婚談効無し新事旅行見合せの事△七赤●詐害に乘じ後悔あり新事見合せの事△八白●視察探險交際喝采婚談開店に吉其他手控への事△九紫●起業旅行命名披露集會集開宴會に吉貸借不動產上の事控へ目の事(本町五丁目三一館花卉)

●天氣豫報 自七日午後六時至八日午後六時
北東風晴
六日(華氏) 最高溫度七九、五 最低溫度六〇、三

●朝鮮農會の品評會 朝鮮農會第一回品評會は來る二十八日より十月二日まで京城黄金町農商工部[illegible]に於て[illegible]出品物は蔬菜、果實、種子、苗木、園藝に關する器具[illegible]品にて出品者は[illegible]出品目錄を提出すべしと云ふ

●龍山の下水修繕費 [illegible]下水修繕費[illegible]千圓を之に流用せん目下詮議中なりと



一東京生蕎麥
支店開業御披露
今般左の處に支店を設け九月七日より開業仕候間本店同様御贔負の程偏に奉希上候
京城太平町二丁目（四ッ角）
更科支店　電話六九八番
京城旭町一丁目
更科本店　電話千百八番

歯科治療
本町六丁目（藪そば横町）
ドクトル　中村安子
女子見習募集委細面談
（電話一五八三）

韓宮御用
營業科目
和洋紙類　印刷附屬品　印刷インキ　和洋書籍　防腐デシン　穀物食鹽　諸染料類　其他
發行販賣
東京ランバーゾ商會代理店
東京中外アスファルト株式會社代理店
東京千代田生命保險相互會社代理店
東京博文館發行書籍特約店
東京金港堂發行書籍特約店
東京國定教科書共同販賣所特約
藤田合名會社
本社　京城明治町二丁目（電話二三〇番）
出張所　東京京橋南鍋町一丁目十番地（電話新橋三六九二）

和洋金物商
韓國京城本町五丁目
釘本藤次郎本店
電話四五番（信略ク號）
振替貯金口座韓國（二五六）
鎭南浦西三丁目
釘本鎭南浦支店
電話六三番
京城南大門外蓬萊町
釘本鐵工所
電話二三四番

明法學士
北島靜法律事務所
仁川仲町三ノ八（タウセンド筋向）（電話七〇一番）
京城裁判所西側

牛馬犬猫治療所
入院隨意
小川家畜醫院
京城明治町三丁目（電話四二七番）
院長　小川龜太郎

一鴨綠江松材現木
長サ八尺五寸以上二間半
一尺五寸角以上二尺迄
右木材多數所有致し居候に付特別安價に賣却仕候間御望の方は御來談被下度願上候

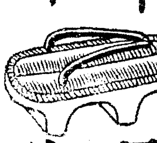
建築業　柴田芝之六
京城旭町三丁目（電話五六八番）
表具部開業
襖額屏風天井壁張及表裝一切
並書畫の需用に應す
旭町三丁目三日月湯隣
柴田表具部
主任　網島久雄
眞光小太郎
電話五六八

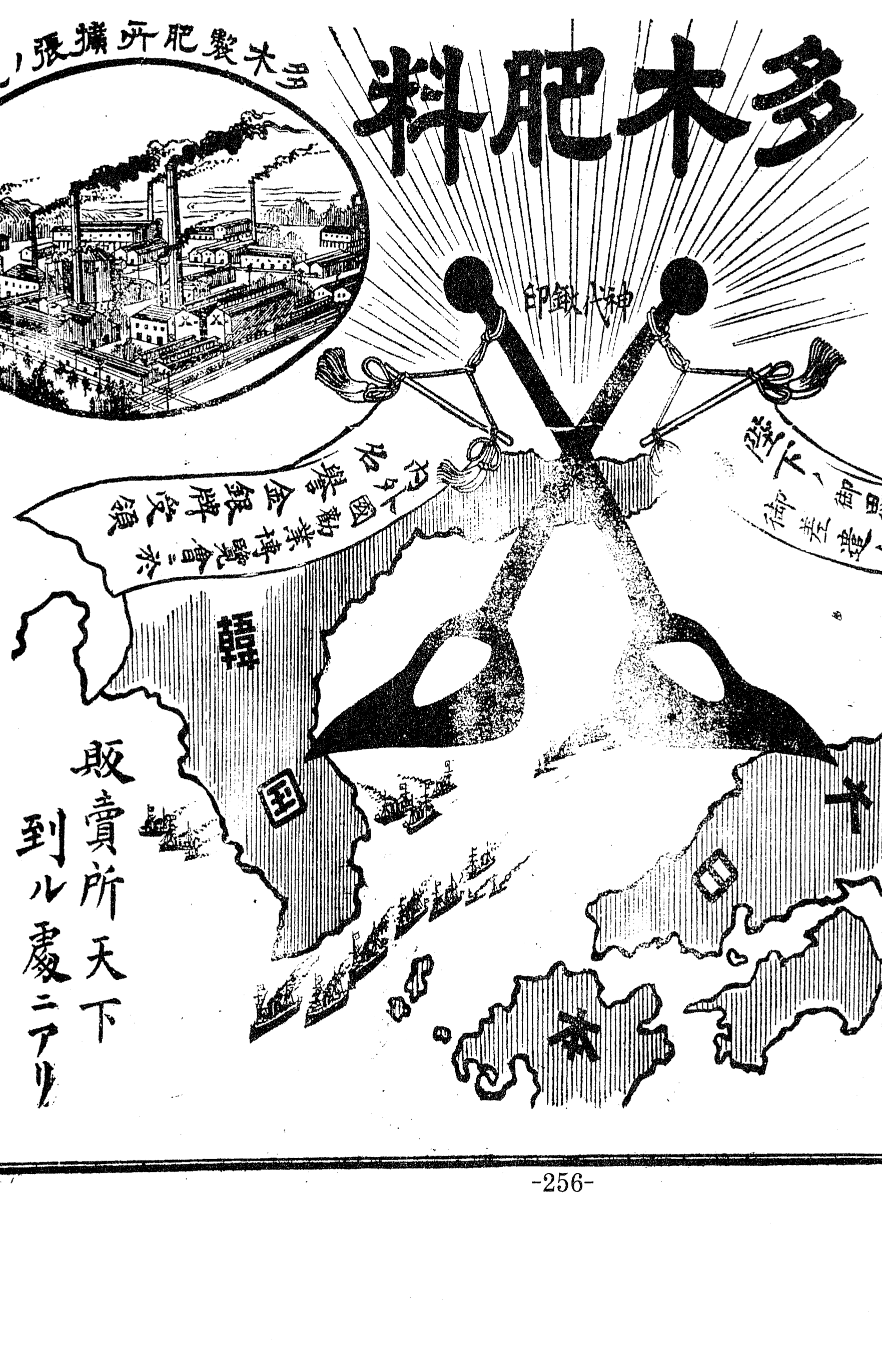
關戶蚊帳株式會社韓國代理店
吳服太物
洋反蒲團
調進
京城明治町一丁目
唐川商店
電話二六一番
新案特許製綿韓國一手特約店

無比勉強
かや
わた

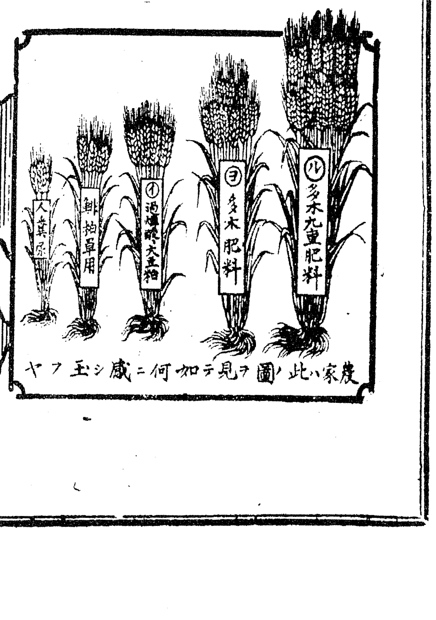
開業五週年紀念大賣出し
謹啓時下殘暑の候四方御花主樣愈々御清康之段奉大賀候降而弊店事毎々御引立を蒙り御蔭を以て日増しに繁榮に赴き難有奉存候扨て當店開業正に五週年に相成候に付聊か祝意を表する爲め九月一日より十月三十日迄向ふ六十日間紀念大賣出を致し各位の御愛顧に酬ゆる爲商品は總て正價の一割五分引特別勉強の廉價で御多少に不拘御買上げ下され候ハ程偏に奉懇願候尚ほ地方よりの御注文品は半額前金御送付下され候へば早速引替小包にて御發送可仕候
大工道具、打刄物、和洋金物、理髮道具
京城本町三丁目
㊀友谷商店
電話一三一番

乍憚口上
各々樣愈々御機嫌麗はしく被爲在恭悅至極に奉存候却說私共遙々大連へ罷越拙なき業をもて御目見得仕候處意外の御好評を賜り此度目出度打揚げ歸國仕候途すがら仁川御贔負樣の御招ぎに預り彼地にて三日間興行仕候處是又連日の大入を重ね一同感謝に耐へざる次第に御座候就ては又もや御錦地御贔負樣より是非とも立寄れよとの難有御思召に甘へ舊よりた馴染薄き私共には候得共弱きを助くる御俠氣を力草に壽町壽座に於て來る六日より向ふ三日間（日延べなし）開演仕候に付何卒開場當日より御誘ひ交はされ永當々々御運びの程只管奉希上候敬白
太夫　竹本大島太夫
三味線　豊澤猿治郎
請元　壽座

東京足袋

本店東京
京城大和町一丁目（日の出橋際）
大和屋
藤井出張店
電話二百〇五番
明治町勸商場内ニモ出張店アリ
正札付大安賣厘毛引なし安心して買へ升



日韓合邦
日韓合邦ハ已デニ成リ國力發展ノ急ナル今日ヨリ切ナルハナシ此時勢ニ應ズル農家ノ一大覺悟ヲ要ス只一ニ効力顯著ニシテ價格低廉ナル肥料ヲ撰ムノ一事ニアル言ヲ俟タズ
日韓合併ハ兩國民ノ慶事ナルモ會社ノ合併ハ需要者ノ歔ナリ不廉ノ肥料ヲ購入セシメテ農家ヲ泣カシムルノ時季アルヤ知ルベシ殷鑑近ク彼ノ米國ノ「トラスト」ニアリ豈農家ノ一大警戒ヲ要スベキ秋ニアラズヤ弊所微力ト雖モ奮ッテ多年ノ高恩ニ報ヒンコトヲ期ス



釜山特約販賣店
朝鮮釜山大新一丁目
大池忠助